

「この道は 世界につづく ゆめとびら」

～令和元年度「道路ふれあい月間」推進標語入選作品を決定しました～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の各種活動を特に推進することにより、道路を利用する国民に、道路とふれあい、道路の役割や重要性を改めて認識していただき、道路を常に広く、美しく、安全に利用していただくことを目的とした運動を実施しています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：97団体(教育機関、ボランティア団体、報道機関等)

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない重要な公共施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その役割や重要性が見過ごされがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の活動の一環として、昭和41年より毎年、広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しております。54回目を迎える本年は、全国から4,704作品もの応募がありました。

応募作品について、三好礼子氏(エッセイスト、元国際ライター)、やすみりえ氏(川柳作家、文化庁文化審議会委員)、吉岡耀子氏(交通・環境ジャーナリスト)の3名の委員による選考を経て、[小学生の部][中学生の部][一般の部]の部門毎に、最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品を決定しました。

入選作品の標語は、令和元年度「道路ふれあい月間」の推進のため、幅広く活用する予定です。

◆審査委員◆【総合選評】



三好礼子 委員

《三好委員》令和が始まり、五輪を控えている今の日本。自然災害の脅威や自然保全。身近な問題から宇宙まで、年代に関係なく様々なテーマが取り上げられており、とても興味深く拝見しました。結果は、爽やかでユニークで愛情いっっぱい。詠んだら歌いながら闊歩したくなるような楽しい作品ばかりでした。道には、感謝・笑顔・緑・未来・風が似合います。まさに「ふれあい」ですね。



やすみりえ 委員

《やすみ委員》全国の皆様から多くの作品をご応募いただきました。各部門の最優秀賞作品には標語にふさわしい言葉選びやまとまりの良さ、そして心に響く内容を備えたものを今回も選ぶことができた実感しております。また、優秀賞のそれぞれの標語も、内容に偏りが無いように選ばせていただきました。道路、ふれあい、をキーワードに「未来」「時代」「譲り合う」などの言葉を多く見受けました。まさに今の私たちを取り囲む日常の出来事に寄り添った言葉ですね。昭和の時代から始まったこの「道路ふれあい月間推進標語」ですが、令和時代にはどのような標語が登場するのか楽しみです。これからも標語の持つ力に期待しています。



吉岡耀子 委員

《吉岡委員》小学生、中学生、一般に分かれた部門ごとの優秀作品は年代ごとの生活と感性が滲み出していて、審査を通じて様々な「道路観」に触れることができました。その中で選び出した代表標語は、12歳の少年の作品です。8月の道路ふれあい月間には全国に掲示されるので、街中で、遠出のドライブで出会うかもしれません。グローバルでリズミカル、明るい気分になっていただければ、と願っています。

◆令和元年度の入選者・作品◆

最優秀賞(3作品)

【小学生の部】「この道は 世界につづく ゆめとびら」

荒木瑛登さん(神奈川県 茅ヶ崎市立小和田小学校)

(三好委員) 目新しい「ゆめとびら」という言葉に、一同心動かされました。「世界につづく」と合わさると、未来への可能性がグンと広がり、なんだかウキウキしてきます。小さな裏道から大きな街道までどんな道にも当てはまるだけでなく、応募者自身やすべての人々へのエールとも思えます。始まったばかりの令和という時代にぴったりの素敵な作品ですね。
(やすみ委員) 未来への広がりを感じさせてくれる素敵な作品ですね。日ごろの慣れ親しんだ道を見つめながらこの言葉を紡いだのでしょうか、作者の感性が素直に響いてきます。特に「ゆめとびら」という言葉が良いポイントになっていて、この標語全体を光らせているように感じます。この作品を目にした時、誰もが明るく前向きな気持ちになれることでしょうか。
(吉岡委員) 「ゆめとびら」という言葉はとても明るく、大人も誘い込まれるような気分になります。作者は小学6年生とのこと、「世界につづく」という言葉からも、これからの生活への期待の大きさが感じられます。小学生時代に積み重ねてきた日々の成長から生まれたような、広がりのある標語が生まれました。

【中学生の部】「真っ白な 地図に描こう マイロード」

西川結菜さん(愛媛県 松山市立東中学校)

(三好委員) 白地図の旅の跡を記した日本一周ツーリングが原点の私にとって、キーワードがいっぱいの嬉しい作品です。白は希望。無限大に広がる可能性の地図を胸に、意気揚々と歩いていく様が浮かびます。寄り道したり迷ったり。出会いも別れもあるでしょう。凜とした様から意志の強さを感じました。ふと、「そうだ、私もまだ道半ば。描き続けねば」と気付かされた作品でした。
(やすみ委員) 爽やかな雰囲気のある素晴らしい作品です。道を歩く人、自転車や自動車道を使う人、それぞれの立場に響く内容になっている印象を受けました。いつもの慣れた道も、時には初めて歩く道のように見渡してみるのも大切ですね。もちろん作者としては道路に人生を重ねた表現を通して、等身大の想いを伝えようとしてくれたのだと感じます。真っ白な地図には、これからどんな道が描かれてゆくのか、想像するだけでワクワクすることができます。
(吉岡委員) 言葉遣いが新鮮です。人生を真っ白な地図に置き換えて、ひるむことなく夢を描きまわす。それは、中学生という特別な時期にだけできることなのかもしれません。この時期に書き留めた夢が大人になって叶えられたということはよく聞きます。マイロードという言葉には、ずっと伸びていく道路のイメージも重なり、未来を感じさせます。優秀賞の2作品も、「青春を刻んで歩む」「今日の私は迷わない」と、真剣さをダイレクトに表出して道を描いています。

【一般の部】「ふるさとの 未来を託す 道がある」

梶 政幸さん(千葉県 長生郡白子町)

(三好委員) 休むことなく人や物をつなぐ「道」。どんなに大切かを思い知らされる毎日が続きますが、こちらはストレートで真ん中。誰にも思い馳せるふるさとがありますが、それは場所だけでなく心のふるさと。そこで生きる子供から大人までに愛を送っているようで、とても温まりました。詠めば詠めばど味が出てくる、まるでスルメのような? (褒め言葉) 作品です。
(やすみ委員) 次世代への想いを標語に込めていらっしゃいます。「託す」という言葉に「大切なものをしっかりと手渡したい」という気持ちが表れていて、穏やかな中にも芯のあるメッセージを感じることが出来ました。また、「ふるさと」と平仮名で柔らかく表記していることによって、より一層優しさや温かみのある作品として完成されている印象を受けました。多くの人の共感を得る標語だと思います。
(吉岡委員) 「ふるさと」の言葉には人を引きつけてやまない響きがあるようです。とはいえ、過去の思い出だけでなく、「未来を託す」という願いには強さがあります。ふるさとは今どうなっているのだろうか、変わらず静かにそこにあるのだろうか、あるいは人口減少や変貌などに悩んでいるのだろうか。土地への愛と結び付いて、道は現実味を帯びて輝いて見えてくるようです。

◎最優秀賞3作品のうち、委員に特に好評だった

「この道は 世界につづく ゆめとびら」を今年度の代表標語とします。

優秀賞(6作品)

【小学生の部】

「大すきな みんなの声か ひびく道」 井手心々さん(宮崎県 宮崎市立恒久小学校)

「歩くたび ちがう景色が みえる道」 福島 勝さん(埼玉県 本庄市立旭小学校)

【中学生の部】

「青春を 刻んで歩む 今日の道」 落合 虹さん(山形県 尾花沢市立福原中学校)

「分かれ道 今日の私は 迷わない」 片江 葵さん(佐賀県 龍谷中学校)

【一般の部】

「守りたい 大事な人と 歩く道」 品川香穂さん(神奈川県 逗子市)

「新しい 時代の風を 運ぶ道」 中静憲夫さん(新潟県 長岡市)